

1. TICAD7に向けて
2. ABEイニシアティブの取組み
3. TICAD7におけるインフラ重点プログラム
4. インフラ開発のための政策提言研究
5. 自治体・開発金融機関との連携

2019年4月

JICAアフリカ部

# 1. TICAD7に向けて

# 1. TICAD7に向けて TICAD7の予定と概要

## TICAD7の予定と概要

- 日時、場所：2019年8月28日～30日、パシフィコ横浜
- 主催者：日本政府、アフリカ連合委員会（AUC）、国際連合、  
国連開発計画（UNDP）、世界銀行
- TICAD7に向けたJICAの主要課題
  1. イノベーション／民間を起爆剤としたアフリカ開発の推進
  2. 人的資本の重要性（教育、保健／栄養、農業）
  3. 平和と安定
  4. 日本の持ち味
- TICAD7におけるJICAの役割・予定
  1. TICAD7において日本政府が発表するコミットメントの準備・実施
  2. サイドイベントの開催によるアフリカ開発に関するメッセージの発信
  3. アフリカ諸国及び国際社会との開発パートナーシップの推進
  4. 民間企業との官民連携によるアフリカ・ビジネスの推進
  5. 日本国内のアフリカ開発への関心喚起

# 1. TICAD7に向けて

## TICADでは官民連携が重要

- TICADは当初、アフリカ開発に対する国際社会の関心を喚起し、アフリカの自助努力を支える開発パートナーの支援、成長を通じた貧困削減等の哲学を共有するプラットフォームとして開始、その主流化に貢献
- その後、民間部門の役割の増大に伴い、開発援助から民間投資・官民連携に比重が徐々に移行、日本企業に対する関心と期待が向上
- 並行して、日本での5年毎の開催から、アフリカとの3年毎の交互開催に

# 1. TICAD7に向けて

## TICAD7に向けたJICAの取り組み

- これまでの協力のスケールアップ
- 日本の強みを生かす
- 国際社会と民間セクターとのパートナーシップを拡充する
- 新たな技術や知見、ビジネスモデルなどを導入したイノベーティブな取り組みを進めていく
- これらを通じて、アフリカとの「信頼」を高める

## 2. ABEイニシアティブの取 り組み

## 2. ABEイニシアティブ の取り組み TICADVから開始



2018年9月のレセプション時の様子

ABEイニシアティブは2014年から始まったプログラムです。アフリカの若者を2年間修士課程に在籍し、さらに日本企業にてインターンシップを経験できる内容です。当プログラムは、日本の企業とアフリカ諸国の人材育成の連携促進およびアフリカの若者に実務経験を得てもらうことを目的としております。

## 受入実績(2014～2018合計)(第1～5バッチ)

応募者数	受入者数	内、日本企業推薦
9,109	1,218	223

### 【所属別内訳】

民間人材	政府人材	教育人材	その他
395 (32.4%)	502 (41.2%)	136 (11.2%)	185 (15.2%)

### 【国別内訳】

国名	合計	国名	合計	国名	合計	国名	合計	国名	合計
アルジェリア	8	コンゴ民主共和国	15	ギニアビサウ	3	モーリタニア	5	南スーダン	19
アンゴラ	1	コートジボワール	24	ケニア	150	ナミビア	7	スーダン	19
ベナン	7	ジブチ	5	レソト	5	ニジェール	5	スワジランド	7
ボツワナ	10	エジプト	74	リベリア	4	ナイジェリア	65	タンザニア	85
ブルキナファソ	15	赤道ギニア	4	リビア	1	ルワンダ	41	トーゴ	5
ブルンジ	9	エリトリア	5	マダガスカル	27	サントメ・プリンシペ	4	チュニジア	15
カメルーン	20	エチオピア	75	マラウイ	23	セネガル	60	ウガンダ	26
中央アフリカ	1	ガボン	4	マリ	5	セーシェル	4	ザンビア	28
チャド	2	ガンビア	11	モーリシャス	3	シエラレオネ	7	ジンバブエ	9
コモロ	1	ガーナ	11	モロッコ	64	ソマリア	4		
コンゴ共和国	4	ギニア	2	モザンビーク	102	南アフリカ	108		

## 【専攻別内訳】

専攻分野	人数	割合
工学	321	26.4%
経済・経営	359	29.5%
農学	111	9.1%
ICT	142	11.7%
政治・公共政策	48	3.9%
理学	77	6.3%
医療・保健	21	1.7%
その他	139	11.4%

※ 受入実績のない国:カーボヴェルデ(1か国)



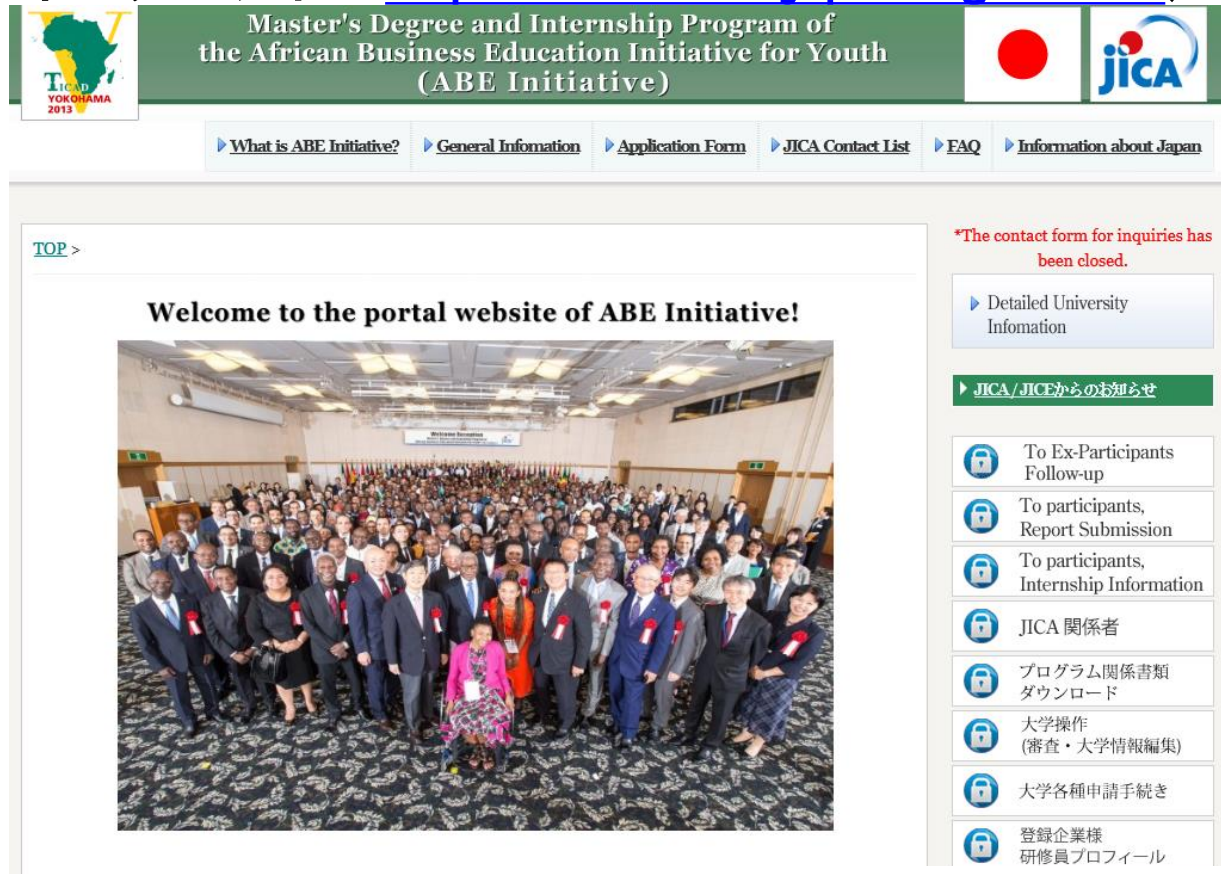
## 2. ABEイニシアティブの取り組み 帰国後のフォロー

### 帰国研修員データベース

来日中の評価や帰国後の最新情報を随時アップデート。

帰国した研修員のデータを履歴書形式で登録企業に公開。

(ABEイニシアティブポータルサイト <http://education-japan.org/africa/>)



The screenshot shows the homepage of the ABE Initiative portal. At the top, there is a header with the TCCAD YOKOHAMA 2013 logo, the title "Master's Degree and Internship Program of the African Business Education Initiative for Youth (ABE Initiative)", and the JICA logo. Below the header is a navigation menu with links: "What is ABE Initiative?", "General Information", "Application Form", "JICA Contact List", "FAQ", and "Information about Japan". The main content area features a "Welcome to the portal website of ABE Initiative!" message above a large group photo of participants. To the right, there is a sidebar with a red notice: "\*The contact form for inquiries has been closed." Below this, there are several menu items: "Detailed University Information", "JICA/JICEからのお知らせ", "To Ex-Participants Follow-up", "To participants, Report Submission", "To participants, Internship Information", "JICA 関係者", "プログラム関係書類ダウンロード", "大学操作 (審査・大学情報編集)", "大学各種申請手続き", and "登録企業様 研修員プロフィール".

# 3. TICAD7における インフラ重点プログラム

# 3. TICAD7におけるインフラ重点プログラム

## TICADV, VIにおける成長回廊開発・広域開発等の重点地域事例

### TICAD V

5つの成長回廊開発・重点地域

### TICAD V

10カ所の戦略的M/P策定  
(2016年11月現在)

<回廊開発>

- ① 北部回廊・モンバサ港開発
- ② タンザニア物流システム強化計画
- ③ ナカラ回廊開発
- ④ 西アフリカ成長リング
- ⑤ マグレブ地域インフラ整備計画
- <電力・エネルギー>
- ⑥ 大地溝帯地熱開発
- ⑦ 南部アフリカ電力網
- ⑧ モザンビーク天然ガスバリューチェーン
- ⑨ タンザニア天然ガスバリューチェーン

※10カ所目は検討中

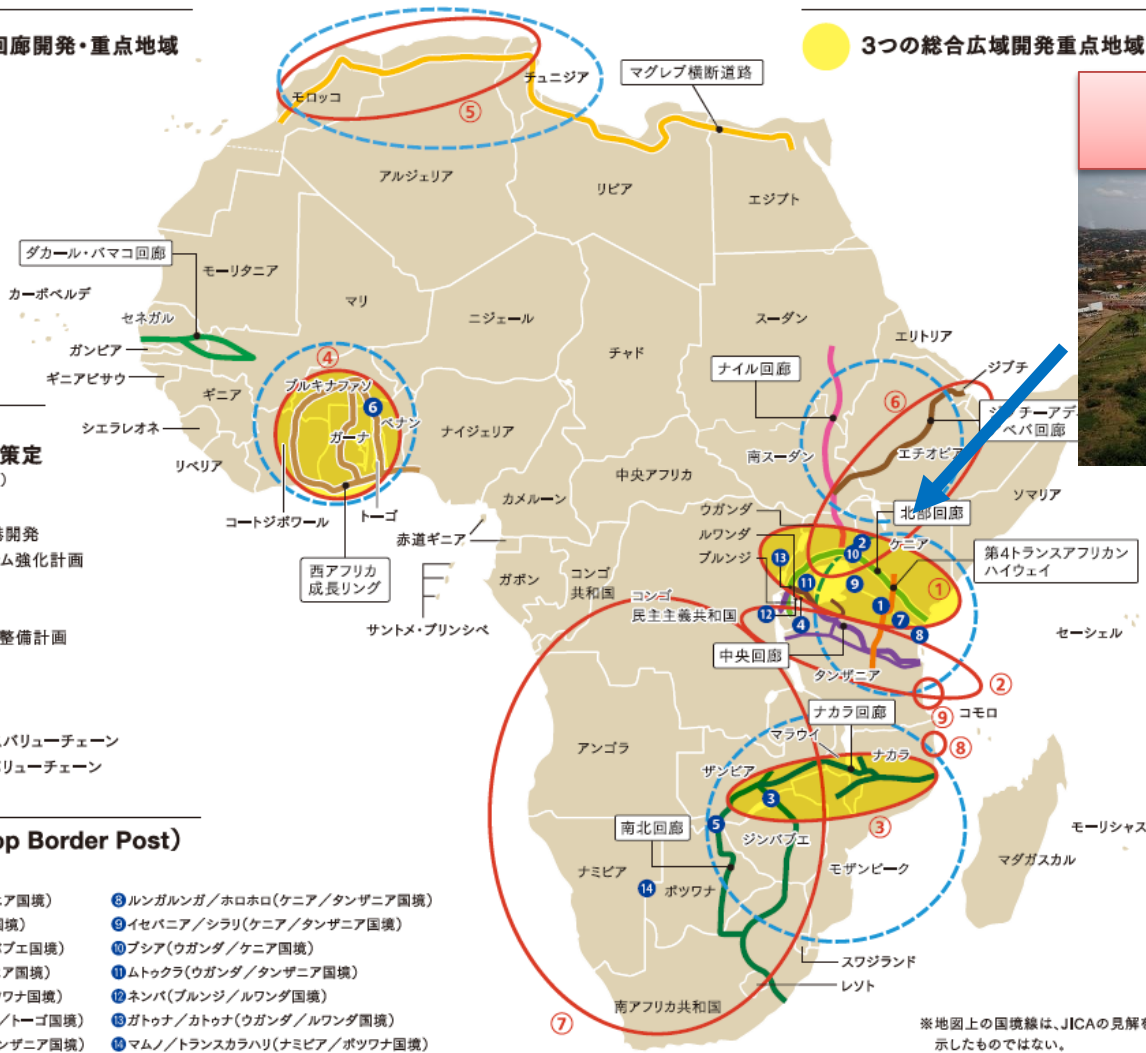
### OSBP (One Stop Border Post)

14カ所に協力中

- ① ナマンガ(ケニア/タンザニア国境)
- ② マラバ(ウガンダ/ケニア国境)
- ③ チルンド(ザンビア/ジンバブエ国境)
- ④ ルスモ(ルワンダ/タンザニア国境)
- ⑤ カズングラ(ザンビア/ボツワナ国境)
- ⑥ サンカンセ(ブルキナファソ/トーゴ国境)
- ⑦ タベタ/ホリリ(ケニア/タンザニア国境)
- ⑧ ルンガルンガ/ホロホロ(ケニア/タンザニア国境)
- ⑨ イセバニア/シラリ(ケニア/タンザニア国境)
- ⑩ プシア(ウガンダ/ケニア国境)
- ⑪ ムトゥクラ(ウガンダ/タンザニア国境)
- ⑫ ネンバ(ブルンジ/ルワンダ国境)
- ⑬ ガトツナ/カトゥナ(ウガンダ/ルワンダ国境)
- ⑭ マムノ/トランスカラハリ(ナミビア/ボツワナ国境)

### TICAD VI

3つの総合広域開発重点地域



ナイル架橋建設事業(ウガンダ)  
(円借款 2018年完工)

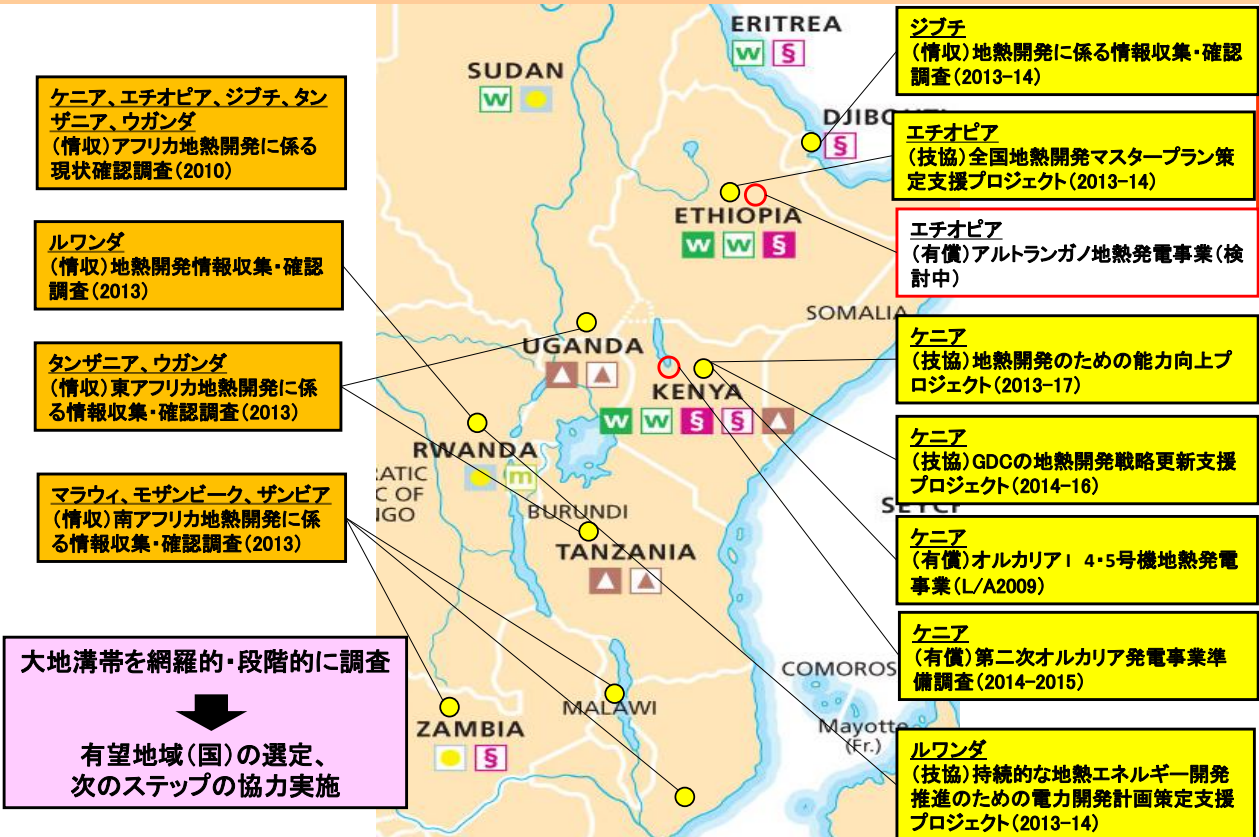
※地図上の国境線は、JICAの見解を示したものではありません。

# 3. TICAD7におけるインフラ重点プログラムアフリカ 大地溝帯における地熱開発協力

- 安価で低炭素なベースロード電源である地熱発電の開発を促進することにより、アフリカの電力安定供給に貢献。
- 我が国の地熱開発技術は世界トップクラス。我が国メーカーのプラントが世界市場シェア約7割。→インフラ輸出

## <JICAの協力の方向性>

地熱開発は資源開発リスクを伴うため、事業の内部収益率向上が重要。産官学オールジャパンの体制でODA事業を展開。①人材育成(開発成功率の向上と開発期間の低減)、②地熱開発政策・計画の提案(マスタープラン策定支援、PPP促進等)、③探査技術の研究開発(開発成功率の向上)、④譲許的な資金の提供(円借款、海外投融資)



大地溝帯を網羅的・段階的に調査  
↓  
有望地域(国)の選定、次のステップの協力実施

凡例 ○ : 実施中あるいは実施済の案件、 ○ : 形成中の案件  
情収: 情報収集・確認調査、 技協: 技術協力、 有償: 有償資金協力(円借款)

### <JICAの新しい取り組み>

- ① 試掘支援
- ② 本邦研修の増強(エグゼクティブ、資源エンジニア、掘削マネジメント)

### <我が国の課題>

国内外ニーズの高い10MWクラスの  
小規模プラントの競争力強化

異なるコンセプトの坑口プラント  
ニーズへの対応(従来: 50MW × 1基  
→ 5MW × 10基)

日本人若手技術者の育成(技術者を輩出する大学地熱講座の活性化: 九州大学)

# 4. インフラ開発の ための政策提言研究 (東大への委託契約調査事例)

南アフリカ: 持続可能な都市交通の事例



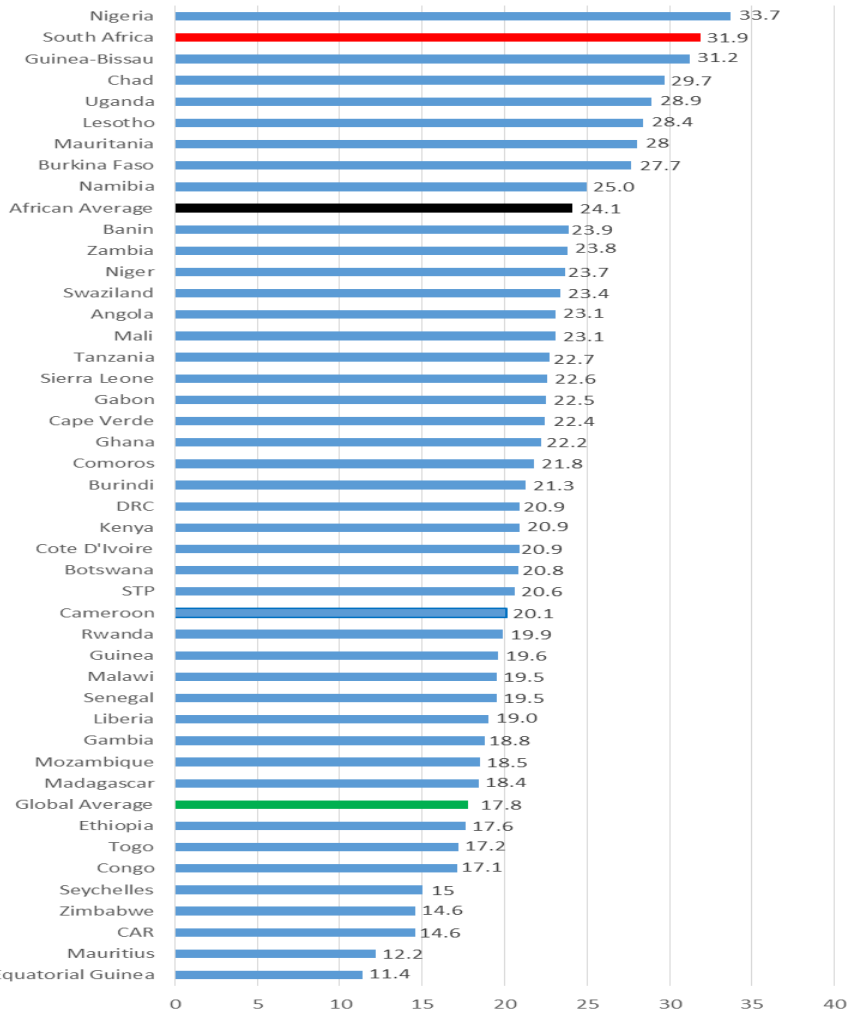
# 4. インフラ開発のための政策提言研究

## Background: South African Modes of Transport

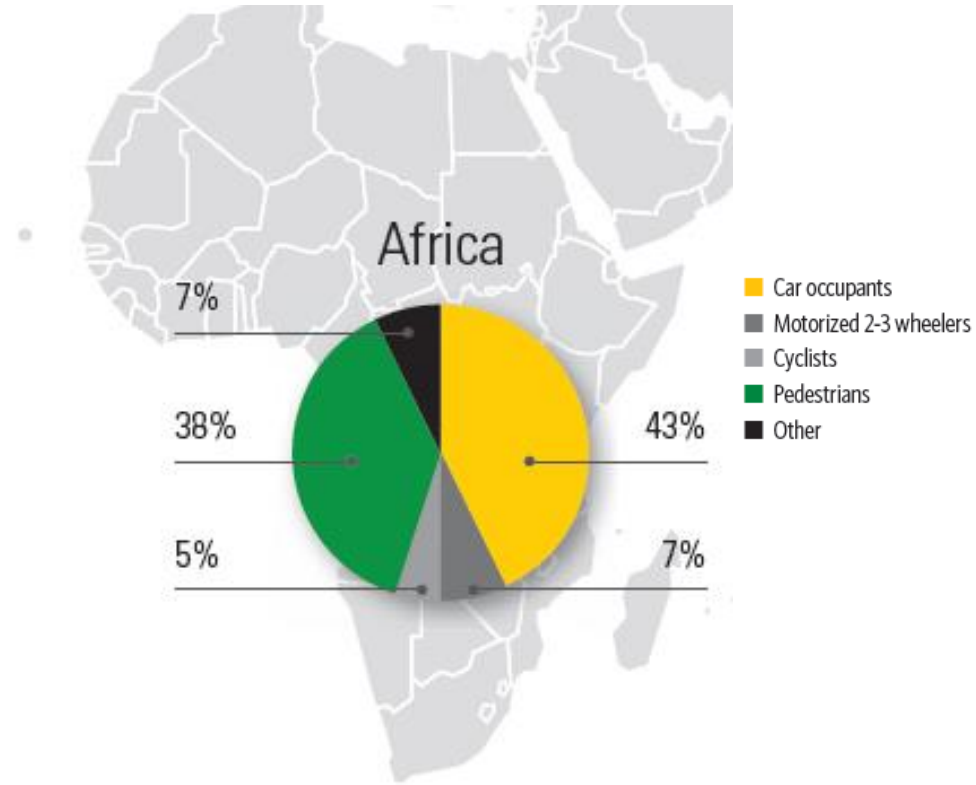


# 4. インフラ開発のための政策提言研究

Fatalities/100000pop



## Background: Africa has High Level of Road Fatalities



Source: WHO, 2013

# 4.インフラ開発のための政策提言研究

## Way Forward: Potential Synergies and Trade-offs

### Synergies:

- Sustainable funding solutions can prioritize safe, secure, affordable, accessible, efficient and resilient transport
- Investment in NMT can create more vibrant places
- Spatial transformation through high densities and mixed land-use encourages NMT

### Trade-offs:

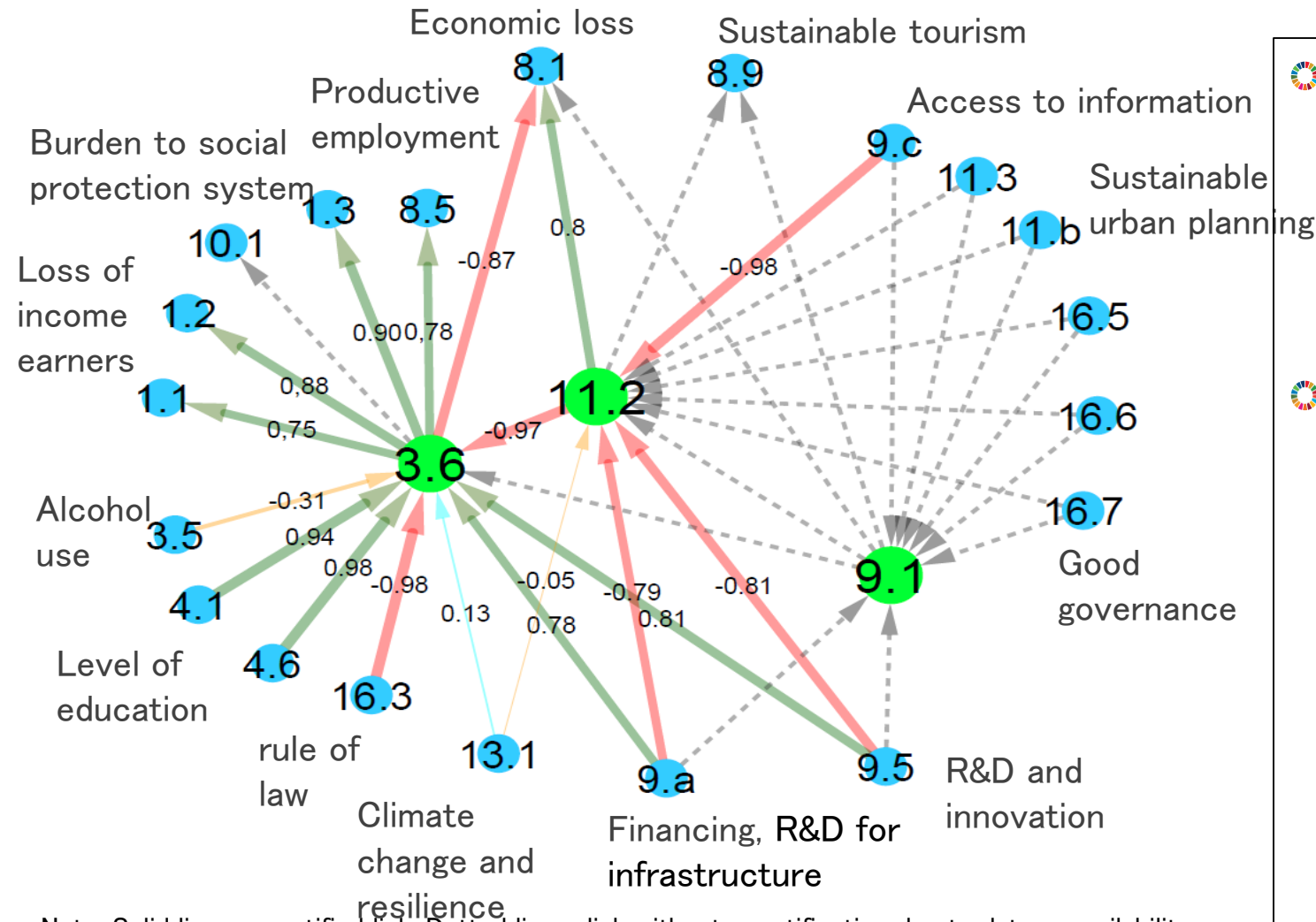
- Security of people could be at risk if NMT is built without safety and security in mind
- Urban planning and TOD may not provide universal access if the CBA is not appropriately applied
- Sustainable funding may not strive for accessibility, affordability and safety, but rather prioritise efficiency and competitiveness





# 4.インフラ開発のための政策提言研究

運輸交通の改善は、経済発展や社会の改善にも貢献



Reducing road traffic accidents (3.6) as a leverage point can generate many social and economic benefits.

Existing transport system and associated infrastructure (11.2) may constrain further improvement in road safety and should be addressed urgently.

Note: Solid line – quantified link; Dotted line – link without quantification due to data unavailability; Green line – strong positive link; Red line – strong negative link; Line thickness – strength of the link; Arrow – direction of the impact.

# 5.自治体・開発金融機関との連携

南アフリカ:エクルレニ市の事例

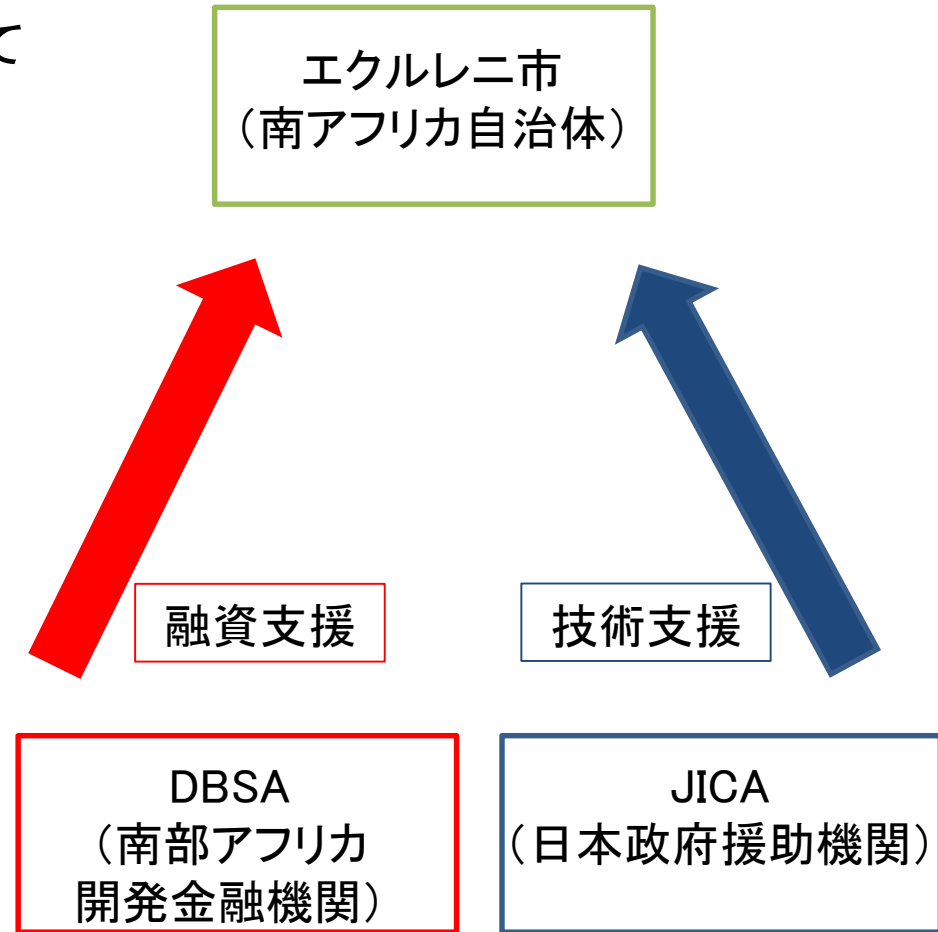
# 5.自治体・開発金融機関との連携

## 南アフリカ:エクルレニ市の事例

- 自治体はインフラ開発・PPPにおいて様々なサービス提供者として重要

### 【プロジェクト事例】

南部アフリカ開発銀行(DBSA)がエクルレニ市の水道事業の改善するため、漏水による無収水対策を支援  
 ⇒水収支表の作成や流量測定等  
 (DBSAが融資、JICAが技術的知見を提供)



Thank you for your attention!